



タレント

シャバ駄馬男

ほおばる。「この苗が半年後にはこんなに美味しいおにぎりになるんだなあ…」。そう思うだけで午後からの仕事がはかどることはかかる。食が人間に与える感動は、それくらい単純で、だからこそ必要不可欠であり、その当たり前を噛みしめたり感じたりすることって大切なことなんだなって思うわけです。

以前「踊るさんま御殿」に出演したとき、東京に来たときに感じた田舎とのギャップがテーマで僕が答えたのは、お米の色についてでした。当時、東京の喫茶店でバイトを始めた頃、使用してお米の色や炊きあがりの味に愕然となってしまった僕は、同じバイト仲間だった、まだ有名になる前のタレント、出川哲朗さんに「東京のお米ってこんな感じなんですか? あんまり美味しいでしょ」と聞くと、「マジでマジで、やっぱいつそういうこと言つたら! このお米なんて全然いい方なんだから、リアルに!」(そんな風には言つてなかつた、リアルに!)と聞きました。

その当時を振り返り、番組で「東京では、ご飯が白くなかったんですよ」と話をしてしまった。僕が東京に初めて行った頃はまだ食べられるよね」と言われ、話が終わってしまった。僕が東京に初めて行った頃はまだ中どこでも美味しい秋田の米が食べられる。それが当たり前の世の中になつたんだなと。県外の人たちは、秋田のお米が美味しいなんてことは、もう十分知つてゐるんです。この秋田が誇れるトップブランドをこの先もずっと守るために何が必要か。

それはやっぱり「若い力」なんですよね。

午前の仕事の疲れを癒やしつつ、そこまで植えた苗を眺めながら、ついおにぎりを作り、昨年テレビの仕事で、半年の期間をかけ、い「ヤング生産者」の指導の下、最終的には

今こそ田んぼでおにぎりを食べるべし!

みなさんこんばんはーん? こんにちは! どうも! シヤバ駄馬男です!

基本的には暗くなつた時間帯から、お茶の

間のテレビに登場したり、ラジオで声だけおじやますことが多い僕ですが、今回は時間

を問わない紙面にて失礼します!

さて、米所秋田に住み、ご多分に漏れず、お

米とお酒をよく愛する僕ですが、(今日

はまだ飲んでません)この原稿を書き終えた

ら飲みます! 実家経由でお米を調達する

ルートはあるものの、自らが農業体験する機

会というのほとんど無く…。しかし、ようや

く昨年テレビの仕事で、半年の期間をかけ、

作りに携わることが出来ました。とてもお若

い「ヤング生産者」の指導の下、最終的に

はおばる。「この苗が半年後にはこんなに美味しいおにぎりになるんだなあ…」。そう思うだけで、だからこそ必要不可欠であり、その当たり前を噛みしめたり感じたりすることって大切なものなんだなって思うわけです。

たとえば、秋田を代表するスポーツチームや選手とのタイアップ企画、人が多く集まる音楽フェスやさまざまなイベントでのサンプリング。若い人達が農業に直接携わるという環境作りと同時に、堅苦しくなく、間接的にブランディングに関わつてもらうこともできる。

●シャバダバオ
1968年秋田市生まれ。1995年、秋田テレビ伝説の夕方ワイド番組「なんでもアリーナ525」準レギュラー出演を皮切りに、秋田県内を中心にローカルタレントとして活動。テレビ、ラジオへの出演のほか、クラブDJ、イベントのオーガナイズなども手がける。また、現在はブラウザリツツ秋田(JFL)のスタジアムDJを担当。自身も秋田市内リーグチームに所属し、プレイヤーとしても活動している。東京にいた時、出川哲朗氏が同じバイト先で、互いに芸能界への道を夢見ていたといふ。秋田朝日放送「ぶあぶあ金星」、岩手朝日テレビ「GIRL'S TUBE」、エフエム秋田「ブラウザリツツ・オン・ザ・ウェーブ」「シャバコラ錦ウェンズデー」などで活躍中。

約1俵分の苗を手で植え、オリジナルのかかしを作り、設置し、夏場には雑草を取り、秋に収穫。そして最後に、そのご飯を炊いて食べました!

生産者のご苦労を改めて感じたのはもちろんけど、何よりも腰が抜けるほどうまい米に感動! そこで発見したのは、お昼の休憩時間に田んぼのすぐわきで弁当広げて食べた「おにぎり」。これが美味しいお米を作るキーポイントのひとつかなつて。あのほっと一息する場面で、いたゞくお昼つてのは、パンでもカップラーメンでもファストフードでもなく、やっぱり「おにぎり」なんだよなって。

さて、それはまさに、田んぼを目の前におぎりをほおばり、そのおいしさやありがたみを改めて噛みしめるのと同じなんじゃないかなと! そうした場面で皆さんと一緒にがんばつて、いくのが僕らローカルタレントの仕事なんじゃないかなって思っています!

だってこれからもずっと美味しい物を食べて飲んでいたいですからね!

さて、それではそろそろ飲むとしますか!

高齢化が進む秋田県だから、その高齢者を支える若い人達がこの県に留まり、秋田を盛り上げる必要がある。だからこそ、トップブランドであるお米を活用し、若い人達が率先して地元をPR出来る場がもつともっと増えてくれればいいと思います。